



持続可能な森林管理の促進

PEFC アジアプロモーションズ
〒102-0072 東京都千代田区飯田橋 3-11-5 20 山京ビル 904
電話：03-3556-5081 Fax: 03-3556-5082
メール：info@pefcasia.org
HP :www.pefcasia.org

PEFC 評議会声明

2009年10月30日

他の森林認証制度を^{おとし}貶める最近の FSC の“努力”から誰か利益を得る者がいるのか？

FSC がこの度発表した報告書に対して、PEFC 評議会の事務局長である Ben Gunneberg は、「持続可能な森林管理への取組みの方法論には世界の主要な森林認証制度による違いがあるのは事実だが、それによって、それら森林認証制度の核心的な使命である『持続可能な森林管理の普及』が紛れてしまってはならない。」と述べている。

FSC は、国際 PEFC グループやその他の認証規格を FSC 独自の FSC コントロールウッドの基準と比較してその報告をしているが、これは、自らとは異なる方法論に基づく森林認証制度（特に数百万件にも上る家族経営や共同体経営の林業者にとってより取り組みやすい制度）を公に貶めようとする最新の“努力”の一環である。

「二つの森林認証制度が長期にわたって持続可能な森林管理の基準や方法に関しする同意に至っていない以上、この報告書の結論は、誰にとっても目新しいものではない。」と、同氏は続ける。

「リンゴをオレンジと比較することは意味ないこと。FSC の分析に見られる両者のギャップは、片方の側の基準に関する解釈を他方に当てはめようとすることに起因する差異であり、この報告書に見られる誤りはまさに他の森林認証システムとの比較の困難さを浮立させている。」

持続可能な森林管理とは全体論的 (holistic) な取組みであるのに、FSC は自らの主張の正当性を証拠立てるために、200 を超える持続可能性に関する要求事項を 5 つのお手盛り基準に削ぎ落とすことで、世界中のステークホルダーや専門家を巻き込んで何年もかけてコンセンサスを構築しながら実行してきた仕事を傷つけ、完璧に無視した、と PEFC は指摘する。

専門家たちが持続可能な森林管理が気候変動の様な社会的な課題との取組みに多大な貢献ができる可能性を有するものであることを指摘する一方で、国連は 2006 年以降の認証森林の伸びが大幅に減速していることを警告している。

「世界の認証森林の面積が全体の 8% のみの水準で停滞していて、しかもその殆どは先進国であるのが現状である。FSC は、自分以外の責任ある生産源を制限することでマーケットシェアを得ようとする代わりに、地球南部地域を中心とする世界の森林に認証を拡大する

ことを目指して他の林業コミュニティと協働することに焦点を当てるべきだ。」と Gunneberg 氏は追加して述べた。

「我々の仲間である FSC が持続可能な森林管理の促進に対して果たす価値ある貢献は、我々も認識している。PEFC 側の立場からも、自分のシステムと FSC のそれとの間に大きなギャップがあると言えるが、そんなギャップの認識から利益を得るものがあるとは思えない。今は、対決ではなく協働が求められている時期である。異なる森林認証制度がそれぞれのアプローチ法によって社会に提供できる利点を活かすことこそが緊急に求められている。」

PEFC は政府間プロセス基準とおよびガイドラインに立脚する世界最大の森林認証制度で、その完成は世界中の何千ともいえる多数のステークホルダーや専門家の協働の成果であり、持続可能な森林管理に関わる諸問題を包括的にカバーしている。

PEFC も FSC も公平な外部の専門家によって余すところなく研究されており、両者とも（世界の組織の原材料の）調達政策の中で広く受け入れられている。

「PEFC 認証を受けた木材を活用しないと言う FSC による今回の決定に関しては大変遺憾である。なぜなら、こうしたことは企業が消費者のために認証製品を製造することの妨げになるからである。」

る。「認証制度がこの様な騒々しい喧嘩にかまけているには、一般社会はあまりに多くの問題が山積しているのである。過去においても、PEFC は FSC に対して協働を呼び掛けた。今後も建設的な呼びかけを続ける所存である。」

PEFC は今後もさらなる認証の増加を期して、顧客やステークホルダーとの協働を見据えて活動を進めるが、他の認証制度を^{ないがしろ}蔑にすることはしない。それでなければ、森林認証は国連の懸念のままに停滞してしまうからである。

2009年10月30日

ジュネーブ

他の森林認証制度を^{おとし}貶める最近の FSC の“努力”から誰か利益を得る者がいるのか？

FCS がこの度発表した報告書に対して、PEFC 評議会の事務局長である Ben Gunneberg は、「持続可能な森林管理への取組みの方法論には世界の主要な森林認証制度による違いがあるのは事実だが、それによって、それら森林認証制度の核心的な使命である『持続可能な森林管理の普及』が紛れてしまってはならない。」と述べている。

FSC は、国際 PEFC グループやその他の認証規格を FSC 独自の FSC コントロールウッドの基準と比較してその報告をしているが、これは、自らとは異なる方法論に基づく森林認証制度（特に数百万件にも上る家族経営や共同体経営の林業者にとってより取り組みやすい制度）を公に貶めようとする最新の“努力”の一環である。

「二つの森林認証制度が長期にわたって持続可能な森林管理の基準や方法に関しする同意に至っていない以上、この報告書の結論は、誰にとっても目新しいものではない。」と、同氏は続ける。

「リンゴをオレンジと比較することは意味ないこと。FSC の分析に見られる両者のギャップは、片方の側の基準に関する解釈を他方に当てはめようとすることに起因する差異であり、この報告書に見られる誤りはまさに他の森林認証システムとの比較の困難さを浮立たせている。」

持続可能な森林管理とは全体論的（holistic）な取り組みであるのに、FSC は自らの主張の正当性を証拠立てるために、200 を超える持続可能性に関する要求事項を 5 つのお手盛り基準に削ぎ落とすことで、世界中のステークホルダーや専門家を巻き込んで何年もかけてコンセンサスを構築しながら実行してきた仕事を傷つけ、完璧に無視した、と PEFC は指摘する。

専門家たちが持続可能な森林管理が気候変動の様な社会的な課題との取り組みに多大な貢献ができる可能性を有するものであることを指摘する一方で、国連は 2006 年以降の認証森林の伸びが大幅に減速していることを警告している。

「世界の認証森林の面積が全体の 8% のみの水準で停滞していて、しかもその殆どは先進国であるのが現状である。FSC は、自分以外の責任ある生産源を制限することでマーケットシェアを得ようとする代わりに、地球南部地域を中心とする世界の森林に認証を拡大することを目指して他の林業コミュニティと協働することに焦点を当てるべきだ。」と Gunneberg 氏は追加して述べた。

「我々の仲間である FSC が持続可能な森林管理の促進に対して果たす価値ある貢献は、我々も認識している。PEFC 側の立場からも、自分のシステムと FSC のそれとの間に大きなギャップがあると言えるが、そんなギャップの認識から利益を得るものがあるとは思えない。今は、対決ではなく協働が求められている時期である。異なる森林認証制度がそれぞれのアプローチ法によって社会に提供できる利点を活かすことこそが緊急に求められている。」

PEFC は政府間プロセス基準とおよびガイドラインに立脚する世界最大の森林認証制度で、その完成は世界中の何千ともいえる多数のステークホルダーや専門家の協働の成果であり、持続可能な森林管理に関わる諸問題を包括的にカバーしている。

PEFC も FSC も公平な外部の専門家によって余すところなく研究されており、両者とも（世界の組織の原材料の）調達政策の中で広く受け入れられている。

「PEFC 認証を受けた木材を活用しないと言う FSC による今回の決定に関しては大変遺憾である。なぜなら、こうしたことは企業が消費者のために認証製品を製造することの妨げになるからである。」

上記にもかかわらず、PEFC は FSC 認証品を PEFC 認証品の中に受け入れることを継続する。「認証制度がこの様な騒々しい喧嘩にかまけているには、一般社会はあまりに多くの問題が山積しているのである。過去においても、PEFC は FSC に対して協働を呼び掛けた。今後とも建設的な呼びかけを続ける所存である。」

PEFC は今後もさらなる認証の増加を期して、顧客やステークホルダーとの協働を見据えて活動を進めるが、他の認証制度を^{ないがしろ}蔑にすることはしない。それでなければ、森林認証は国連の懸念のままに停滞してしまうからである。

